

令和6年度 第1回公立幼稚園のあり方検討会（会議録）

日時 令和6年7月12日（金）午後2時～午後3時30分

場所 森町保健福祉センター 機能回復訓練室

出席者 会長 田宮 縁
委員 萩本 弘江
委員 鈴木 秀臣
委員 増田 博行
委員 安間 初実
委員 渡邊 浩之
委員 平松 悦夫
委員 平出 麻子

（事務局）

学校教育課長	塩澤 由記弥
健康こども課長	朝比奈 礼子
健康こども課長補佐	川島 直子
幼稚園保育園係長	米倉 雅俊
幼稚園保育園係主事	菅沼 朋恵
幼稚園保育園係指導主事	小倉 寿加子

出席 委員8名・事務局6名

議事 (1) 森町公立幼稚園の現状と課題について
(2) 森町公立幼稚園の今後のあり方について

議事要旨

- 1 開会（課長補佐）
- 2 挨拶

健康こども課長：本日は、お忙しい中幼稚園のあり方検討会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、委員の就任に際しまして、ご承諾いただきまして、重ねてお礼申し上げます。

日頃は、町の幼児教育や、児童福祉にご理解・ご協力いただき感謝申し上げます。今年

度幼稚園のあり方検討会について、本日を含めまして全4回の開催を予定しております。年度内に方向性を決め、町長への報告としていきたいと考えております。

このあり方検討会の開催の背景には、幼児数の減少や保育需要の増加等により、幼稚園の園児数の劇的な減少によって幼稚園における集団規模が保たれなくなっている状況があり、早い段階で幼児教育の質の確保や幼児期の安定した生活環境を整える必要性が高くなっていることから、それらを喫緊の課題ととらえまして、今年度の開催としております。

以前にも、森町学校のあり方検討会が平成29年度に開催されまして、そこでまとめられた報告書では、「幼稚園の再編を望む声が多数あることから預かり保育の拡大や保育機能を併せ持つ認定こども園への移行等の研究が必要であると思われる」「発達や学びの連続性を踏まえた、幼児教育を推進するため、幼稚園がどうあるべきかの検討を望む」と記されています。それを受けまして、平成29年度幼稚園は教育委員会の所管でしたので、教育委員会内で検討し、更に町長部局内の関係部局による庁内検討会の検証を経て、平成30年度の総合教育会議にて幼稚園については、制度や保護者のニーズを見極め、幼稚園のあり方や再編について引き続き研究すると報告されております。それらが土台となりまして今回のあり方検討会にもつながったということになります。

全4回の検討会では、委員の皆様から様々な率直なご意見をいただき、検討・協議していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

3 委員・事務局紹介（課長補佐）

委員及び事務局を紹介

4 会長選出（課長補佐）

田宮委員を会長として選出

5 会長挨拶

会長：会長に選出されました田宮でございます。よろしくお願いいたします。もしかしたら私が一番森町について知らないかもしれませんが、ですから、教えていただくことが多いかもしれませんが、どうぞよろしくお願いいたします。私自身は遠江総合高校の学校運営に関する協議会の委員を務めておりまして、ここ数年は、年に何度か訪問させていただいておりますが、とても落ち着いてとても良い町だなと思っております。

本日は、はじめて保健福祉センターに入らせていただきました。まず、小規模保育所があり、児童館の中も拝見しましたが、利用者の立場に立った非常に良い環境がつけられているなと思いました。私は、県内を中心にほとんどの市町に訪問させていただいておりますので、いろいろな情報をもっています。その中で、子育ての施設について非常に質の高い環境がつけられているというのがわかりましたし、中にいる指導員さんたちも含めてとても温かい雰囲気、心の通ったサービスをなさっているなと感じました。今回訪問させ

をいただいて、このあり方検討会が前向きに、そして、いい方向に進むだろうと思っておりますので、皆様のご協力そしてご支援をいただきながら進めて参りたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

6 議事

(1) 森町公立幼稚園の現状と課題について

事務局説明（幼稚園保育園係長）

委員：私自身も40年前飯田幼稚園に通ってまして、今は娘が通っていますが、当時とまったく変わっていないなと感じています。良いところでもあるのですが、安全面や園児同士の交流が少なくなることによるコミュニケーション能力に心配があります。これから子どもたちのためにより良い方向に向かえば良いなと思っております

(2) 森町公立幼稚園の今後のあり方について

事務局説明（幼稚園保育園係長）

会長：まず、幼児教育の質の高さや教育の質の高さを人間関係だけから迫っていくのは少し違和感があります。保育には「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5つの領域がありますので、例えば、「環境」の領域からみると少人数の方が、質の高い教育ができます。また、少し意味が違っているなと思う部分がありまして、資料の中で「協同性」という言葉を使っていますが、幼稚園教育要領で協同性は、「友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したり…」とあり、この中の共通の目的とは、先生から与えられた目的ではなく、子ども達自身がやりたいことです。それに対して考えたり、工夫したりすることになるので30人の集団でそれを実現するのは難しいと思います。

もう一つは、根拠となっている「幼児集団の形成過程と協同性の育ちに関する研究」についてで、近隣の市町でもこれを参考にしているのではないかと思います。この研究の中でも、望ましい学級人数が、国立・私立の園は同数程度ですが、公立園はそれよりも少なくなっています。国立・私立の園は多様なお子さんを受け入れていない可能性があります。園で多様なお子さんを受け入れるとなると学級人数は少ないほうが、1人1人に手厚い対応ができるため、そのようなところでも差が生まれています。プロジェクトメソッドや違う方法も使っていくことができますので、質の高い教育を考える上で、そのあたりも踏まえながら、皆様からご意見をいただきたいと思っております。

委員：率直に感じたことは、森町の公立幼稚園にあまり明るい未来はないのかなと感じました。確かに人口減少に伴う幼児数の減少、保育園のニーズの高まりによって幼稚園の園

児数は減ってきています。私は、飯田幼稚園に勤めていましたが、園児数が10人を切ると加速度的に人数が減っていくのです。保護者としては、なるべく人数が多いところが良い、男の子が1人だと可哀想等の理由で、保育園や市外の幼稚園に転園する話が保護者から出てきてグッと減ってしまったというところがあります。逆に、天方幼稚園も人数は少なかったのですが、町外から通って来ているお子さんが2、3人いました。

人数が全てではないというお話でしたが、少ないとやはり集団生活やコミュニケーション、社会性の面の心配はあります。

令和2年から森町の幼稚園に勤めていますが、当時は森町の3歳児～5歳児の40%が幼稚園に通っていたのが、今は20%切るところまで減っています。資料の中でも、「保育所においても幼児教育を実施することとなり、施設の違いが以前ほど明確ではなくなっている」とありますが、やはり幼稚園で行っている教育の質は高いと思っています。保育園と比べた場合にそういう面では優位性があると思っていますが、保護者の立場からすると、それが第1の選択肢にならないというところが残念です。

例えば、森町の公立幼稚園の新入園児の預かり保育は、ゴールデンウィーク明けから行うことになっていますが、できるだけ早く預けたいという思いから、4月から預けられる保育園を選ばれる保護者の方もいます。児童が減少していくのはやむを得ないですが、それを少しでも食い止めるような方法を考えていければ良いなと思っています。

会長：預かり保育を始めるのがゴールデンウィーク明けというのはやはり子どものことを中心に考えて決められていると思いますが、保護者のニーズも考慮していくのもこれからは重要になってくるというお話だったかなと思います。

委員：2歳児まで保育園に通っていた子も同じような対応になってしまっているところは残念です。

会長：そうですね、継続的に集団生活に慣れている子は4月からと多少早めても大丈夫かなと思います。あともう一つお伺いしたいのは、天方幼稚園に町外から通っていた子がいたというのは、なにか特別な支援等を求めて来ていたのでしょうか。

委員：自然の豊かな中で体験活動ができるということを人づてに聞いて、そのようなところで子どもを育てたいというお考えでした。

会長：それは嬉しいことですね。町外の方も教育の質が高いということを認められていたのだと思います。

委員：公立幼稚園の存続が危ぶまれているのは、全国的に同じ理由ではないかと思いま

す。私は今、小学校にいますが、小学校のライバルは私立小学校です。しかし、この辺には、私立小学校が無いので、児童を取られることがないです。もし、飯田小学校を私立だと考えたとき、児童を確保するのになにをすべきかを考えましたが、やはりマーケティングをしなければ話にならないと思います。幼稚園でいうと0歳から5歳までの保護者は、何を求めて幼稚園・保育園なのか、ということ进行分析しなければ生き残れないと思います。例えば、飯田小学校の教育施設（校舎や体育館、プール）は森小学校と宮園小学校よりも新しいので強みになるなどです。

教育の質の高さは、こちらが強くアピールしない限り、保護者の方に伝わりづらいと思っています。どちらかというと、保育時間や施設の新鮮さ、先生の人数などに視点がいくのではないのでしょうか。その分析と対策を講じなければ、(6) 今後の再編方針第3案の認定こども園化は不可能だと思います。マーケティングをして、森町に住んでいる若い世代が、幼稚園・保育園を望んでいる理由を掘り下げなければ、数年後に認定こども園化しても上手くいかないと思います。

森町の人口が減っているわけですから、私立の保育園も存続するために、更に研究をしてくると思います。その点も公立幼稚園は見据えていかなければ、生き残れないと思います。極端なことを言えば、幼児教育は私立に任せることになっていくことも考えられます。

第3期の子ども・子育て支援事業計画を策定するということですが、その中にマーケティングのことを盛り込み、その上で方針などがあるのであれば説得力があると思います。以上が気になったところです。

会長：マーケティングという言葉がありましたが、公立園は私立園への配慮からあまり宣伝をしていないです。

もう一つは、どの市町をみても情報発信ツールの使い方が下手で、相手が分かる言葉で発信できていないというのがあります。そこはどうかしていく必要があると思います。委員がおっしゃったように、幼稚園を1園にしたとしても、きちんとコンセプトをまとめていかなければ、同じ結果になってしまうと思います。

保護者のニーズだけではなく、保育の質など量的に表現できない伝えづらい強みを伝えられるようにしていかなければならないと思います。

また、幼小の接続や特別支援のことを考慮すると公立の幼稚園またはこども園は必要だと思います。

委員：私は、子育て支援の関係でのびのびクラブやすくすくクラブに参加をしています。年々子どもの数が減っているのを切実に感じています。保護者の方から「〇月になると育休が終わってしまうので保育園へ預けるつもりです。」というお話をよく耳にします。町でやっている教室も子どもが減ることによって考えていかなければいけない部分は

幼稚園と繋がっているなとつねづね思っています。

私は教育委員会の関係で、家庭教育支援員もやっております、その際、幼稚園に何う機会があります。幼稚園の先生方がひとりひとりの児童に丁寧に関わっているのを拝見し、子どものために思うと幼稚園が1つになってしまっても良いのかと考えております。

会長：子どもの数が減っているのは実感しているけれども、幼稚園を1つにしてしまっても良いのかという思いもあるということですね。

委員：幼稚園の園児数が減っている理由として核家庭化、祖父母が現役で働いている若しくは高齢化により預けられる環境にないというところも考えられると思います。幼稚園のイメージとして役員の負担が多いというイメージがあると聞きます。私はPTA役員をやらせていただいておりますが、就労している保護者からすると1つの用事が増える毎に負担もかなり増えるのではないかと考えています。私も働くようになって実感しています。その部分で保護者の方からすると一歩踏み出せず、金額的にもそんなに変わらないので保育園の方が楽だと考える保護者の方も少なくないと思いました。

施設の老朽化が進んでいるというお話もありましたが、私が、一番気になっていることは山が近くにあるということです。飯田幼稚園も川が近いですね。そこも考慮して新しくしていくのも良いのではないかと考えています。体育館の横を公園にするという話も聞きましたが、私は幼稚園じゃないかと考えています。小学校も中学校も人数が減っていて、統合するなどの噂を聞いたりしますが、幼小中一体という考えがあるのであれば、飯田・園田・森とそれぞれの小学校などで教育区間をまとめるということも考えられます。

いろいろな考えがある中でどれが最善なのか分かりませんが、この会が良い方向に向かっていくことを願っています。よろしくお願いします。

会長：PTA役員については、負担軽減のためにこれから活動の精選をしていく必要があると考えています。

施設をどうするかにあたっては、災害のことも考慮してほしいということでしたが、このような声を沢山聞けるとよいと思います。

最後の方に「規制で決められているECECの職員一人当たりのこどもの数の上限」という資料をつけさせていただきましたが、日本は職員1人当たりのこどもの数の上限が35人とかなり多いです。教育の質が高いといわれているヨーロッパは上限が10人以下となっています。

旧A町の事例をお話しますが、A町には2つの地区がありまして、B地区には、公立幼稚園1園、公立保育園1園がありました。施設の老朽化によって小中学校に隣接した場所に幼保連携型認定こども園として新設し、カリキュラムを数年かけて検討、現在は幼小中と交流があるC学園として教育を行っています。もう一つのD地区にあった公立幼稚園は

園舎の老朽化と園児の減少から一時閉園も検討されていましたが、保護者の希望により同地区の小学校の空き教室を改築し、幼稚園機能を付属させました。幼稚園児は小学校の図書館で本を借りたり、給食を同じものを食べたりなど質の高い幼少連携の取り組みがなされていましたが、残念ながら近隣にあった保育園園舎に開設される保育所型認定こども園に統合されることになりました。園児数が少なくなっていたという事情もありますが、質が高く特徴的なこの取り組みをあまり知らせていませんでした。預かり保育もやっていて私立園と同じ条件にも関わらず、私立園への配慮から魅力を発信しづらかったということが背景にあります。

委員：私の子どもは休園した一宮幼稚園に通ってしまっていて、今年度から転園しました。その保護者だということと呼ばれたのかなと思っています。子どもを一宮幼稚園に入れる時には園児数が減っていることは承知しておりまして、逆に少ないから一宮幼稚園に入れたという経緯があります。やはり、先生1人当たりに対する子どもの人数が少ないので、ひとりひとりを手厚くみてくれること、ちょっとした子どもの変化にきづいて対応してくれることを求めて少人数園にあえて入れました。公立の園ですので、やはりPTAの活動やお弁当、年少の預かり保育が5月からなどさまざまな障害はありましたが、それはなんとか乗り越えて少人数園に入れたかったというのがありました。今回、統合などのお話もありますが、そういった意味では残念という気持ちもあるものの、人数がどんと増えたわけではないですし、ちゃんとみとくさっているの、感謝をしています。

やはり少人数が良いなと思うものの、時代に求められたものによって変わっていくのは致し方ないことかなと思っています。

会長：たしかに「森町の教育システムはこうです。」などもっと発信していてもいいのかなと思いました。移住者にとっても教育環境は一つの判断基準になるとおもいますので、そこに通わせたいと思わせるような施策に取り組んでいきたいと思います。

E市の中でも、少人数を求めて別の地区から中山間地へ通っている児童もいます。E市では移住により入園希望児童が1人でもいれば、休園にしていた園を開園するといった措置をとっています。行政担当者に聞いたところ、ずっと休園状態にしておくのは、施設の老朽化の問題もあり難しいので、その場合は、小学校など別のところで開園できるような方策を考えていくという話をお聞きしたことがあります。

委員：少子化により児童数が減っていくことが決まっているなかで、どうアプローチしていくのが大事ではないかと思っています。まだ第1回ということもあるとは思いますが、この会議がどの方向に向かっていくのか見えてこないです。事前に資料をいただければ、考えてきたり、配偶者と相談したりできるので、事前にいただければ勉強しやすいかなと思います。

年少に当たる年齢の児童の2割ほどしか幼稚園へ通っていないということで、増やすこ

とはなかなか難しいと思うのですが、人数が維持できるような対応をしていく必要があると思います。保護者や保育に関わる方々の意見も聞きながら、週2回のお弁当から給食を増やすなど保護者負担を減らし、幼稚園が選択肢に入るような調整をしていけたら良いと思います。

会長：多くの方のご意見も伺いたいということでしたが、これからの具体的な方向性は意見聴取をした上で、決めていくという流れになるかと思います。

委員：今、森町の公立幼稚園の良さってなんだろうと考えながら、話を聞いていました。森町の公立幼稚園では、30年以上前から子どもは太陽と水と土で育つということで、地域の自然それから人間関係、人との関わりを大切にして保育を進めてきています。

私は、休園となった天方幼稚園と廃園となった三倉幼稚園に勤めた経験があります。3学年を一つの学級として保育を行う複々式学級を担任していました。少ない小集団の子どもたちをどうやって育てようか、なにがこの人数でできるのだろうということを考えながら保育をしたなということを思い出しました。少ない人数のなかで異年齢の育ち合いというのはすごく感じます。思いやりが育つのはもちろん、常に複々式学級で生活しているので、年長児をモデルに下の子達の経験の幅がすごく広がるし、子どもが子どもを育て、真似て学びながら育っていくような環境でした。それこそ三倉幼稚園は三倉小学校の一階が保育室だったので、小学生との関わりも非常に多く、休み時間に遊びに来たり、朝に小学校の校歌が流れるので園児達が外に出て歌ったり、そんな生活で、すごく良さも多かったと感じます。

少人数のため個が意見を言わなければ何も始まらないというところで、自分の思いを伝えるという力はすごく身についたと感じています。ただ、年長と年中・年少だと走るスピードが全然違うので、ドッジボールやリレーなど競い合って楽しむという遊びができませんでした。自分の記録を伸ばすということはできますが、競い合って伸びていく部分もあると思うのでそこは難しいところです。すごくプラスに育つ面と保育の工夫が必要な面があったと感じています。

先ほどお話がありましたが、町外から通っていた保護者の方は、地域おこし協力隊など移住者の方の紹介で来ているのですが、少人数だから良いと言ってあえて少人数を選ばれていました。休園の話がでたときも、「もっとSNSで発信してほしい」「言って良ければ言うけどどう？」となんとかして園を継続していくための手立てを保護者なりに考えて伝えてくださったこともありますし、地域に幼稚園が無いと移住者の方を呼べないとその方はおっしゃっていました。幼稚園が無いから移住を考えられる移住者の方もいるということでした。

ニュースなどでみたことがあるのですが、保育園留学というのをやっている地域・自治体もあって、森町にはアクティ森があるので宿泊施設にどうかと思ったりしたこともありま

す。そのように上手く自治体と幼稚園・保育園が連携しながら、人口の減少は止められないにしても、良さを発信していくことはできるのかなと感じました。公立園の良さは、地域に密着していること、園に通っていた園児が親になって先生と再会するといった縦のつながりがみられること、小学校・中学校との交流がスムーズに行えるといったことが良さだと思っています。ただ、その良さを発信することがもっと必要なのかなということも強く感じています。

会長：中にいるとみえない良さが沢山あり、移住者の方はそうした魅力を感じながら移住される方もいるのだろうと思います。

委員もおっしゃっていましたが、少なければ少ないなりに保育者は、どういう保育をすべきかと非常に工夫しているのです。少人数であることで、園児達は30人ではできない濃い体験ができています。どうしてもドッジボールなどの子ども発信ではなく先生発信の集団遊びは、少人数ではなかなか難しいですが、他市では園と園を交流させる取り組みをしているところもあります。

三倉幼稚園が三倉小学校の一階にあったというお話も初めて伺いましたが、その部分も含めて少人数の良さをどうアピールしていくか考えていけなければなりませんね。

一定の人数がいないと教育ができない訳では決してないですが、様々な事情があるので園が各地区に存続していくのが難しい状況です。園を集約していくにしても森町の魅力をきちんと出せるようなものでなければならぬと思いますし、あまりにも園を減らしてしまうと移住者も減ってしまうかもしれません。

今回は初回ということで、事務局からの説明を受けた委員の皆様のご意見を伺ってまいりました。

以上で議事を終了し、進行を事務局へお返しします。

7 事務連絡（幼稚園保育園係長）

次回検討会の開催について

8 閉会（課長補佐）

以上「第1回森町公立幼稚園のあり方検討会」閉会